

## 保育の展開と家庭との連携

—3年保育3歳児の実践を通して—

Cooperation with Guardians in Preschool Education  
Through Practice in 3-year-olds in 3-year Program

高 橋 順 子\*

首 藤 敏 元\*\*

Junko TAKAHASHI

Toshimoto SHUTO

### 1 はじめに

数年前のことになるが、「持ち物すべてに記名をしてください」という幼稚園のお願いに対して、私の担任する幼児の保護者から「うちの子は自分の持ち物がわかるようにしつけてあるので、記名無しでも大丈夫です」という答えがあった。個人的に自分の持ち物がわかるということは大切であるが、幼稚園という集団生活においては、互いが気持ちよく生活するために、各自の持ち物に記名するというのも大切であることを説明し、記名に協力してもらった。幼児は、それぞれの家族の一員として誕生し、家庭教育を受け、幼稚園に入園してくる。各家庭には、家族構成、生活習慣、教育方針があり、それぞれに家庭生活は異なっている。一方、幼稚園も、教育目標、教育方法などがあり、独自の園生活を展開している。それぞれの家庭生活と園生活の異なった点に気づき、互いを理解し、受け入れるまでに手だてや時間を要することもある。幼稚園教育において、それぞれの生活を融合させ、幼児にとって望ましい生活を展開するために、幼稚園は、家庭との連携を積極的に行う必要がある。

また、幼稚園教育要領には、幼児期における教育は「家庭との連携を図りながら、生涯にわたる人間形成の基礎を培うために大切なものであり、幼稚園は、幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼稚園生活を通して、生きる力の基礎を育成するよう学校教育法第78条に規定する幼稚園教育の目標の達成に努めなければならない。…以下略…」(文部科学省, 1997)とある。さらに、「特に、入園当初においては、幼稚園生活がこれまでの生活と異なるので、一人一人の生活の仕方やリズムに配慮して1日の生活を考えることが必要である。…中略…さらに、家庭との連携を図ることによって、個々の幼児の生活に対する理解を深め、例えば、家庭のように安心できる雰囲気のある保育室の環境をつくるなど、幼児が安心して幼稚園生活を送ることができるように配慮することも必要である」(p. 163)とある。

しかしながら、家庭との連携について、幼稚園教育要領のように概要を述べた資料が多く、具体的に保育の展開と結びつけた幼児主体の資料は少ない。そこで、本論文は、3年保育3歳児の実践を報告し、主に入園当初についての「保育の展開」と「家庭との連携」を重ね合わせた基礎的資料を提示することを目的とする。

\* 千代田区立幼稚園教諭

\*\* 埼玉大学教育学部乳幼児教育講座

## 2 実践

実践の対象は、東京都公立幼稚園の3年保育3歳児（男児9名、女児16名、計25名）とその保護者である。実践の期間は、2007年4月から12月までである。記録は、この期間に行なわれた保育のうち家庭との連携についての事柄を抜粋したものである。

実践にあたっては、筆者のこれまでの保育経験から、連携の対象を明確にし、効果的と考えられる方法を選択することに留意した。連携の対象には、大まかにわけて、「学級の保護者全員」と「個々の保護者」とがある。前者との連携は、例として、園便り、学級便り、掲示板への掲示、保護者会での話し合いなどがある。それらの場合、伝えたい情報は、保護者全員に確実に伝わるようにした。後者の場合は、降園時の口頭での伝達、個人面談などがある。

### 2-1 入園当初の「保育の展開」と「家庭との連携」の実践

#### 4月の実践

4月の園生活は、ほとんどの幼児にとって、家庭、保護者から離れて、初めての集団の始まりとなり、幼児はもちろんのこと、保護者にとっても、期待と不安が多い時期である。この頃の家庭との連携では、教師は、幼児の家庭生活と園生活とがなめらかに接続できるように配慮し、必要に応じて家庭での様子を知り、幼児、保護者ともに、園生活の仕方に慣れ、安定して過ごしていけるようにすることに重点をおいた。

4月の大まかな保育の展開については、表1の週日案「3歳児第2週（4月16日～4月20日）」に示した。家庭との連携としては、3月の新入生園児保護者会では、教育時間、持ち物、欠席、緊急時の連絡方法など、園生活全般について記載されている「園生活のしおり」という冊子を幼稚園から説明とともに渡してある。これに続き、4月の実践は行われた。

学級全体の保護者を対象にしたものとしては、入園式、初回の学級便りの発行（資料1「学級だより（4月号）参照」、保護者会などであった。この時期の連携では、内容が重なっても、確実に伝えるために、繰り返し伝え、保護者に園での生活の仕方を理解してもらうことを大切にされた。特に、持ち物、登校園の時間・方法などについては、幼児に直接、関わることであり、幼児が園生活に慣れるために重要であることを話し、守ってもらうようにした。また、降園時に、保護者に幼児を引き渡した際に、配付したお知らせが入っているか、必ず、確認してもらうようにした。

入園当初、保護者全体を対象に伝えたことに対して、伝わりにくいと感ずる家庭には、別途、個別に伝えることも必要であった。園生活の仕方は、子育ての経験の少ない保護者や外国籍の保護者にとっては、想像もつかない内容のこともあるので、十分に配慮した。

個々の保護者を対象とした連携として、個人面談を行った。時間は各家庭15分程度であった。個人面談の機会は、保護者と担任とが落ち着いて1対1で向き合える大切な機会であった。入園時に受け取っている「幼児資料」をもとに、幼児の好きな遊びや生活習慣などを話の中心にした。食事、着替え、排泄などの生活習慣については、家庭とともに進めていくことが不可欠であり、幼児の実態について保護者と細かく話し合った。また、保護者から、食べ物や薬のアレルギーなどについても詳しく聞き、安全に園生活を送れるようにした。

## 5月の実践

5月の園生活では、幼児が園生活に慣れ、安定して遊ぶが多く見られるようになる。この頃の園生活は、保育時間が徐々に延び、お弁当の日が加わり、今まで以上に園生活に慣れ親しんでいくように展開されていく。食事や着替えなど、家庭で行っている生活習慣を幼児自身が集団生活の中でできるようにするため、この時期の家庭との連携では、園生活での弁当や着替えなどのやり方に沿って、家庭でも準備してもらうことに重点をおいた。5月の大まかな保育の展開について、表2の週日案「3歳児第6週（5月7日～5月11日）」、家庭との連携については、資料2「学級だより（5月号）」に示した。

学級全体の保護者を対象にしたものとしては、弁当参観、学級便りの発行などであった。園生活で弁当が始まることから お弁当について詳しく載せた。また、すでに伝えてある情報を活かしてほしいという願いから、基本的なことが記載されている「園生活のしおり」のページを示した。弁当の量や中身へ配慮してもらえるように、実際に食べるのに要する時間を知らせた。さらに、弁当を実際に食べている様子を参観してもらうことで、園生活を具体的に理解してもらえるようにした。

個々の保護者を対象とした連携では、弁当参観を活かして、幼児が喜んで食べられるように、幼児自身で準備や後始末ができるような用具にしてもらえるように細かく話すことが多かった。

## 6月の実践

6月にはプール開き、夏野菜の収穫などがあり、園生活に新しい体験が加わる時期である。また、友達と触れあうことも多くなる。この頃の家庭との連携では、新しい体験の様子をタイムリーに具体的に伝え、園生活の様子を理解してもらうことに重点をおいた。6月の大まかな保育の展開については、表3の週日案「3歳児第10週（6月18日～6月22日）」、家庭との連携については、資料3「学級だより（6月号）」に示した。

学級全体の保護者を対象にしたものとしては、参観日、学級便りの発行、掲示板での日々の活動の様子や伝達などであった。参観日を通して、園での生活や遊びの様子を実際にみせ、幼児の発達にとっての園生活や遊びの意味を伝えた。

個々の保護者を対象としたものとして、この時期には友達と触れあう機会が多くなる反面、友達とのトラブルを起こしやすくなるため、トラブルの状況や仲直りするまでの様子を伝えるようにした。

## 7月の実践

7月の園生活は、夏休みという長期休業を前にして、4月から7月の生活のまとめの時期となる。再び、家庭教育が主となることから、家庭との連携では、食事、排泄など基本的な生活にかかわる内容について、園生活と家庭生活を継続的に行えるようにしていくことに重点をおいた。

学級全体の保護者を対象にしたものとしては、学級便り、夏休みのしおりなどの発行であった。これらの中には、交通事故、食中毒の防止など夏休みの安全な過ごし方や、夏ならではの遊びの紹介などをした。

個々の保護者を対象としたものとして、個人面談を行った。4月に行った面談の内容と関連させ、4月から7月までの幼児の成長を話した。そして、夏休みの生活についての方向性を出した。ほとんどの幼児は、着替えや排泄が出来るようになっていることから、教師と保護者が共に幼児の成長を共感することができた。

表1 週日案 第2週の一部抜粋

3 歳児				I 期 第2週 (4月16日 ~ 4月20日)		担 任
園 長			副 園 長			
前週 の 幼 児 の 表 態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数名の幼児が泣いて登園することあったが、年長児と手をつなぎ、保育室に来て、所持品を始末したり、好きな遊びを見つたりしている。</li> <li>○ プラレール、ままごと、ブロック、お絵かきなど家庭でも親しみのある遊具を使って、遊び出す姿が多くみられた。</li> <li>○ ロッカーに帽子やカバンを入れたり、カバンからのコップやタオルを出したり入れたりなどできることをしようとする幼児もいる。</li> <li>○ 教師とふれあうことや手遊びを一緒にすることを喜び、教師に親しみをもち始めている。</li> <li>○ 特別支援を要する幼児は、プラレール、新幹線など興味をもつものを媒介に安定して過ごすことが多かった。</li> </ul>		ねらい・指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 園生活に親しみをもつ。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安定する場を見つけて生活する。</li> <li>・ 先生と仲良しになる。</li> <li>・ 自分の持ち物の置き場や手洗い、トイレの使い方などを知る。</li> <li>・ 1日の園での過ごし方を知る。</li> <li>・ 園内の安全過ごし方を知る。</li> </ul> </li> </ul>		
環 境 ・ 援 助 及 び 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼児一人一人を温かく迎え入れ、安心して過ごせるようにする。スキンシップをしたり、一緒に歌ったりして幼児が教師に親しみをもてるようにする。</li> <li>○ 家庭で親しんでいるおもちゃや用具を準備し、アットホームな雰囲気にし、遊び出したくなるようにする。(プラレール、ブロック、ままごと、お絵かきなど)</li> <li>○ 鞆や靴箱など、シールなどをはり、わかりやすくしておく。また、教師と一緒に徐々に行い徐々に自分で始末の仕方がわかるようにしていく。</li> <li>○ 遊びの場が広がるので、園内で安全に過ごせるように、危険箇所を知らせたり、靴を履くことを促したりしたりする。また、遊びの場が広がるので、教師同士が連携を十分に図る。</li> <li>○ 特別支援を要する幼児には、本児が興味のもてる環境(新幹線、レゴなど)を用意するとともに先生や友達と同じ場にいることになれるようにする。</li> </ul>					

保育の展開と家庭との連携

表2 週日案 第6週の一部抜粋

3 歳児 第6週 (5月7日～5月11日)				担 任
園 長			副 園 長	
前週 の 幼 児 の 実 態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 砂遊びや固定遊具などの外遊び、プラレール、ままごと、ブロック、お絵かきなど室内遊びなど、家庭でも親しみのある遊具を使って、遊び出す姿が多くみられた。</li> <li>○ ロッカーに帽子やカバンを入れたり、カバンからのコップやタオルを出したり入れたりなどできることをしようとする幼児もいる。</li> <li>○ 教師とふれあうことや手遊びを一緒にすることを喜び、教師に親しみをもち始めている。</li> <li>○ 特別支援を要する幼児は、登園時「ママ」と言うときもあるが、教師と安定して過ごしている。また、他のクラスの様子や生き物をみるなど興味も広がりつつある。教師とカバンや帽子をロッカーにしまうことはできるが、クレヨンを口に入れたこともあり配慮を要する。</li> </ul>	ねらい・指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 園生活に親しみをもつ。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安定する場を見つけて生活する。</li> <li>・ 先生と仲良しになる。</li> <li>・ 自分の持ち物の置き場や手洗い、トイレの使い方などを知る。</li> <li>・ 1日の園での過ごし方を知る。</li> <li>・ 園内の安全過ごし方を知る。</li> </ul> </li> <li>○ 先生と一緒に喜んで身近なことをしたり、遊んだりする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所持品の始末（コップ、タオル、お弁当の準備など）</li> <li>・ お弁当を食べる</li> <li>・ 手遊び</li> <li>・ 歌をうたう</li> </ul> </li> </ul>	
環 境 ・ 援 助 及 び 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○連休明けになる。幼児一人一人を温かく迎え入れ、安心して過ごせるようにする。スキンシップをしたり、一緒に歌ったりして幼児が教師に親しみをもてるようにする。</li> <li>○家庭で親しんでいるおもちゃや用具を準備し、アツとホームな雰囲気にし、遊び出したくなるようにする。(プラレール、ブロック、ままごと、お絵かき、砂遊び、固定遊具など) 教師も一緒に遊ぶことで、親しみをもてるようにしていく。</li> <li>○お弁当の準備や片づけは、教師がモデルとなり具体的な方法を示し、みんなで楽しく食事ができるような雰囲気作りをしていくようにする。</li> <li>○遊びの場が広がるので、園内で安全に過ごせるように、危険箇所を知らせたり、靴を履くことを促したりしたりする。また、遊びの場が広がるので、教師同士が連携を十分に図る。</li> <li>○特別支援を要する幼児には、本児が興味のもてる環境（新幹線、レゴなど）を用意するとともに先生や友達と同じ場にいることになれるようにする。</li> </ul>			

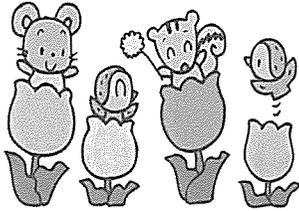
保育の展開と家庭との連携

表3 週日案 第10週の一部抜粋

3 歳児				II 期 第10週 ( 6月18日 ~ 6月22日 )		担 任
園 長			副 園 長			
前週 の 幼 児 の 実 態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ままごと、粘土遊び、お絵かき、砂遊び、固定遊具など、自分で好きな遊びを見つけ、友達や教師と同じ場で遊びを楽しむ姿が多く見られるようになってきた。また、友達の名前を覚え、親しみをもち始めている。遊びの中で、遊具の取り合い、順番を守らないなど、トラブルになることもある。</li> <li>・ 水遊びでは、好きな遊具を使って、水に触れたり、水の中で体を伸ばしたりして、水に親しむ姿が見られた。着替えについては、自分でできる幼児もいるが、教師の手助けが必要な幼児も多い。</li> <li>・ 特別支援を要する幼児は、言語面で、指さしに伴う名詞の他に「行こう」など動詞もできるようになってきている。名詞の加え、動詞の発話も出てきた。</li> </ul>		ね ら い ・ 指 導 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先生や同じ場にいる友達と好きな遊びを楽しむ。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 砂遊び、固定遊具、ままごとなど好きな遊びを見つけて遊ぶ。</li> <li>・ 水遊びやプールなど季節的な遊びを楽しむ。</li> <li>・ 「かして」「いれて」など遊びに必要な言葉を言ってみようとする。</li> </ul> </li> <li>○ 身の回りのことを先生に手伝ってもらいながら自分で行う。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活に必要なきまりを知る (水遊びの約束、準備なども含む)。</li> <li>・ 所持品の始末 (コップ、タオル、お弁当の準備など)、着替えを自分で行う。</li> <li>・ 先生や友達と一緒に歌を歌ったり、体を動かしたり、紙芝居をみたり、お弁当を食べたりする。</li> </ul> </li> </ul>		
環 境 ・ 援 助 及 び 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師も一緒に遊ぶことで、親しみをもてるようにしていくとともに遊びの楽しさを感じさせるようにする。</li> <li>○ 遊具の取り合いなどでトラブルになったときは、その幼児の思いを受けとめ、思いを表せるように援助する。</li> <li>○ 着替えや排泄は自分で行う姿を求め、できないところは方法を知らせたり、教師と一緒にしたりすることで自分で行うようにしていく。</li> <li>○ 水遊びでは約束事など繰り返し話し、安全に遊べるようにする。手順などは教師とも連携し、繰り返し行うことで身に付けていくようにする。個人差に配慮した環境を準備し、徐々に水に慣れるようにしていく。</li> <li>○ 食後は室内で静かに過ごすように声をかける。</li> <li>○ 特別支援を要する幼児には、本児が興味をもてる環境 (砂遊び・お絵かきなど) を用意するとともに、カラー帽子を渡したり、手をつないだり、同じ場で遊んだりして他の幼児とも接する機会を作るようにしていく。また、本児なりにできる生活習慣などは認めていく。</li> </ul>					

保育の展開と家庭との連携

資料1 学級便り（4月号）



平成19年4月13日

## ちゅういっぷだより

担任 高橋 順子

### ご入園おめでとうございます

入園式の翌日、玄関から5歳児のお兄さん、お姉さんに手をつないでもらい、靴を履き替え、保育室に入ってきました。初めておうちの方と離れ、ドキドキしたことと思います。保育室に入ると、「絵、かきたい」「プラレールしたい」「おままごとするの」など、好きな遊びを見つけて、楽しんでいました。はじめて出会うお友達と先生、はじめての場所で、時々、緊張したり、不安になったりすることも自然なことだと思います。登園を嫌がったり、幼稚園で泣いたりすることもあると思いますが、できるだけ明るく送り出していただければ幸いです。幼稚園でも一緒に遊ぶ中で、声をかけたり、スキンシップをしたりして、安心して過ごせるようにしていきます。

詳しいことは、保護者会や降園時にお知らせしていきます。心配なこと、わからないことがあれば、担任に気軽に声をかけてくださいますようお願い申し上げます。

### 4月のねらいと活動

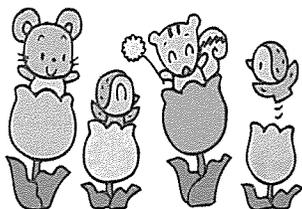
- 幼稚園の生活に親しみをもてるようにしていきます
  - ・ ご家庭でも親しみのあるままごと、お絵かき、プラレール、ブロック、積み木などの遊びを、お子さんが自分の興味にあわせ、好きな遊びを見つけ、徐々に園生活に慣れていくようにしていきます。
  - ・ 一緒に遊んだり、触れ合ったりして先生に親しみをもてるようにしていきます。
- 幼稚園での過ごし方がわかるようにしていきます。
  - ・ 靴、鞆、タオル、コップなど、自分のマークのついた場所においたり、自分の鞆の中にしまったり、身の回りのことを自分でできるようにしていきます。”

### お願い

- すべての持ち物に記名をお願いいたします。
- 降園時、その日の配布物や連絡事項がある場合、降園する場所に掲示板を出しておきますので、各自でご確認いただきますようお願いいたします。

※ 発行したものに一部、修正を加えた。

資料2 学級だより（5月号）



平成19年5月1日

# ちゅういっぴだより

担任 高橋 順子

## 5月の様子

幼稚園の生活に少しずつ慣れ、「先生、おはよう」とかわいい笑顔でお部屋に入ってきてくれるようになりました。自分の靴箱、ロッカーの場所がわかり、靴、カバンと帽子を自分でしまおうとする姿が多くみられるようになりました。また、検診や発育測定では、年長組のお兄さんお姉さんに手伝いをしてもらい、緊張した表情をしながらも無事に終えることができました。

校庭や園庭の外遊びも始まりました。校庭では「三輪車、乗れるよ」「先生、よーいドンしよう」お砂場では「これケーキなの！」「先生、食べて」固定遊具では「滑り台できたよ」「見て、登れた」など元気に遊んでいます。

これからも緊張が解けてきた子が増えている一方、まだ新しい生活に慣れようと一生懸命な子どももたくさんいます。ひとりひとりの歩幅に合わせた保育を心がけたいと思っています。

## 5月のねらいと活動

- 戸外で遊ぶことを楽しみます。
  - ・ 5月は新緑の香りの漂う気持ちの良い季節です。砂場で遊んだり、校庭で走り回ったり、戸外で元気に遊べるようにしていきます。
- 先生や友達と一緒に楽しく食事をします。
  - ・ 食事の前に手を洗ったり、自分で弁当箱を出したり、片付けたり、お弁当の手順を徐々に身につけていきます。
  - ・ 友達と一緒に座ったり、あいさつをしたりして、みんなで楽しく食事をする体験ができるようにしていきます。”

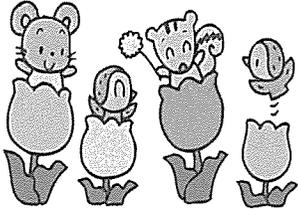
## 弁当について

みんなで食事を楽しむようにするために、以下の点にご配慮いただくと幸いです。なお、弁当にかかわる用品につきましては、園生活のしおりP7をご覧ください。

- 食べやすいものを少量入れて下さい。
  - ・ 最初の頃は、おにぎりなど食べやすく、ごく少量をご用意ください。残さず食べられると、子どもにとっても自信となります。全部食べ切れたら、少しずつ量を増やしていきましょう。
- ※ 5月8日（火）～19日（金）は11時頃食べます。
- 扱いやすい弁当用具にしましょう。
  - ・ お子さんが自分で扱えるか確かめてみましょう。弁当への期待感もてるように、一度、ご家庭で弁当箱を使って、お食事をしてみてはいかがでしょうか。
- 15日（火）保育参観11：00～11：45
  - ・ 弁当の準備をしている様子や食べている様子から、弁当にかかわる用品の扱いやすさや食べやすさなどを見ていただきます。

※ 発行したものに一部、修正を加えた。

資料3 学級便り（6月号）



平成19年6月1日

## ちゅういっぷだより

担任 高橋 順子

### 6月の様子

「おはよう」「〇〇ちゃん？」幼稚園での生活に慣れ、お友達の名前も少しずつ覚えてきました。砂場では「裸足になっていい？」「これ、スープなの。食べて」など砂や水に触れて遊んでいます。滑り台では、「カンカン、踏切です」「トンネルです」などお友達や先生と一緒に遊ぶことを楽しんでいる姿も見られます。

室内での遊びで、ままごと、粘土、積み木などを楽しんでいます。ままごとでは、「赤ちゃん、おんぶするの」「夜ご飯作るね」など日頃の生活を真似た遊びをしています。粘土では、捏ねたり、型を抜いたり手先を動かしていろいろなものを作っています。積み木では、積み重ねたり、並べたりすることから、お家や「でこぼこ道」「くねくね道」に見立てたりして楽しんでいます。

カバン、帽子、靴、コップ、タオルなど身の回り物の始末、着替えや排泄など、自分でしようとする姿も多く見られるようになり、先生や友達と生活する中で、徐々に身につけてきているようです。

### 6月のねらいと活動

- 先生や同じ場にいる友達と好きな遊びを楽しむ。
  - ・ 戸外では砂や水の感触を楽しんだり、室内ではごっこ遊び、積み木、粘土などの遊びをしたりして、先生や友達と同じ場で遊ぶことを楽しみます。
  - ・ リズミカルな遊びや水遊びなど学級のみんで楽しみます。
- 身の回りのことを先生に手伝ってもらいながら自分でしていくようにしていきます。
  - ・ カバン、帽子、靴、コップ、タオルの始末など身の回りの物の始末を自分でできるようにしていきます。
  - ・ プールなどを機会に、着替えや排泄など徐々にできるようにしていきます。”

### お願い

- 6月2日（土）の全日参観日は、安全のため年度当初、お渡ししました赤いフェルトを名札と一緒に、お子さんの右肩につけてください。
- 名札につきましては、入園当初からご協力をいただきありがとうございます。6月5日（火）からは、名札は付けずに登園させてください。なお、名札は6月5日（火）降園時に回収いたします。
- 気温が高くなったり、活動が活発になってきたりしています。半ズボンなどの動きやすい服装を心がけるようにしてください。なお、靴下、下着など全ての持ち物に記名をお願いします。また、汚れた衣服を持ち帰るビニール袋にも記名をお忘れなく！
- もうじき、水遊びが始まります。遊びに使う空き容器などの回収にご協力をお願いします。集める空き容器は、ペットボトル、プリンカップ、牛乳パックなどです。いずれも、学級のみなが遊びに使いますので、きれいに洗い、乾燥させ、無記名でもってきてください。（お子さんにもたせても、降園時に保護者の方がもってきてもどちらでも結構です。）

※ 発行したものに一部、修正を加えた。

その後、9月から12月の園生活では多くの行事が行われる。そのため、家庭との連携は、行事に対する説明や行事への協力依頼が中心となった。学級担任と考えを合わせ、園全体を考えた家庭との連携が多かった。遠足の時の服装、雨天時の方法など、変更を予想される場合についても保護者が不安にならないように丁寧に説明をした。個人的に質問されたことについても、全体の問題として扱う必要がある場合は全員の保護者に再度伝えるようにした。

## 2-2 毎日の連携

学級の保護者全員を対象にしたものとして、掲示板に、配布物、明日の行事、伝染病が出た場合のお知らせなどを載せた。

降園時のあいさつの場を活用して、個々の保護者との連携をとった。教師が親子と1対1であいさつする際、教師はその日の遊びの様子を伝えるようにした。その中で、もっとも配慮を要したのは、怪我があった場合である。幼児が自分自身で転んだり、遊具で怪我をしたりした場合は、状況と手当、その後の様子について詳しく伝え、何か気になることが起これば幼稚園に連絡してほしい旨を伝えた。友達同士で怪我が起きた場合、怪我をさせた幼児の名前を出さないように配慮をした。しかしながら、9月頃、保護者からの要望で、両者を呼んで話をした方が、後々、保護者同士のつきあいが円滑に進むということに配慮し、両者を呼び話すようにした。この時、状況を詳しく話し、それぞれの幼児の気持ちも考えて伝えるようにした。結果的には、両者の保護者が納得して解決することが多かった。

## 3 まとめと今後の課題

連携の対象を「学級の保護者全員」と「個々の保護者」とにわけて実践を行ったことにより、伝え方と内容が明確になり、家庭との連携を充実させることができたと考えられる。実践していく中で迷ったことは、子ども同士のトラブルから怪我をする子が出た場合の保護者との話し合いの進め方である。両者を呼んで話をしたほうが、後々、保護者同士のつきあいが円滑に進むと考え、両者を呼び話すようにしたが、家庭によって考え方も異なるので、両者を呼ぶにしても、どのように対応するかは今後の課題であると考え。毎日の園生活の中で、成長が気になる幼児や子育てに不安を持つ保護者もいた。担任だけでは判断しにくいので、他の教師、外部の講師、スクールカウンセラーと連携をとった。「特別支援教育」「子育て支援の方向性」を家庭との連携の視野に入れていくことも、今後は必要とされるであろう。

平成20年に告示される予定の幼稚園教育要領には、子育て支援や保護者との連携を広げることが示されているという。したがって、今後は、幼稚園教育において、家庭との連携をさらに充実させることが不可欠であるといえる。

### <引用文献>

文部科学省 1997 幼稚園教育要領解説 フレーベル館, p. 192, p. 163